とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	大森北六丁目保育園
施設所在地	大田区大森北六丁目９－１
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

土と水とおひさま（自然の恵みを享受する）

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

・土と水さえあれば元気に泥んこ遊びを発展させる子どもたちが、
「畑を耕し畝に苗を植えて」生長と収穫を心待ちにしている。
・年間通じて継続的に取り組むことで、収穫の喜びと実りに感謝する気持ちが
　生きる力になっている。
・地域向け掲示板を設置し子育てに関する広報活動を活発に行う

２．活動スケジュール

【各学年共通：発達やそのクラスの保育内容に合わせた活用の仕方をする】
４月：土、プランター、苗購入
5～6月：畑づくりをする、苗植えをする（各学年で野菜の種類は決める）、種まきをする、水やりをする、雑草抜きをする、収穫する、給食で収穫した野菜を食べる、収穫した野菜を調理して食べる、水遊び泥んこ遊びをする、図鑑を見る（調べる）、親子で保育園で経験したことを話す、保育園と同じように家庭でもさつまいもを育ててみる（希望者）
６月　：きゅうり、トマトの収穫、給食で提供(2歳）、どろんこ遊び(3歳・4歳・5歳）稲植え(3歳・4歳・5歳）
7月　：トマト・なす収穫（1歳）、ダンゴ虫を見つけ、図鑑でみる（3歳）、ポテトチップスづくり(5歳）
9月：手作りトマトソースづくり(1歳）、大根・ほうれん草の種まき(2歳）、どろんこ遊び(3歳）、かぼちゃ収穫(4歳）、ピザクッキングとぶどうジュースづくり(5歳）
11月：収穫祭（全学年参加の行事。畑で採れた野菜に感謝しながら美味しくいただく。豚汁、やきいもなど）
12月：知らないものを見つけた時には、図鑑で調べようとする（5歳、ライブラリーの環境整備）
1月：収穫した野菜でどんな料理が作れるのか、どんな味がするのか考えながらメニューを決めたり、クッキングを行う。また、2月の保護者会で保護者と一緒に食べる経験をする。（全学年）

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

〇野菜をつくるための畑（プランター）を作る環境・育てる環境の設定：土、肥料、苗、種、プランター、バケツ、ジョーロ、ホース、スプリンクラー（昨年度の野菜作りでは、暑さのために不作で悲しい思いをした。それも自然の出来事だが、やはり実りの喜びを味わいたいために準備した）
〇保護者が保育園での活動に興味をもち、保育に関わろうとする環境の設定：ブラックボード、さつまいもの苗
〇水や泥を使った園庭遊びが楽しめる環境：園庭テーブル、砂ジョーゴ、シャベル、バケツ、アレンジマス、砂場ミニカー
〇水遊び・泥んこを楽しみ、そのあとの園庭遊びで怪我が起きない環境の設定：トンボ、ほうき、ホース、マット
〇土や植物に触れ合う中で生まれてきた「どうしてだろう？」や「知りたい」に答える環境の設定：図鑑、コルクマット（ライブラリーを居心地よくするための環境整備に必要）
〇自分たちで育てたものを美味しく頂くために必要で安全な道具の準備：包丁、まな板、ピーラー、ゴムベラ、菜箸、トング、耐熱ガラスカップ
〇作物を育てながら、豊作祈願という日本の文化に触れ、学びや遊びに取り入れる環境：鳴子
〇園外に掲示されている自分の作品を親子で見ることで、子ども自ら保育園で経験したことの自慢をし、保護者や地域の方に認めてもらえる環境づくり：外用掲示板（道路側に設置するため、工事を依頼した。）

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

【他学年も１年を通して活動しているが、その中でも5歳の活動】

①畑を耕し、畝をつくり、野菜の苗や種を植える。ぶどう組(5歳児）は、じゃがいもからはじめる。

②野菜の生長を楽しみにし、世話しようと積極的に当番活動をする。

③育てている野菜や作物・生き物に興味をもち、図鑑で調べようとする。

④収穫できた作物をクッキングし、みんなで美味しく食べて一緒に喜びあう。

⑤ぶどう組としての収穫が大成功に終わり、他の野菜も元気に育ってほしいという願いが育つ。その願いから、鳴子を使って豊作を祈願し、鳴子踊りを運動会で披露したいと目標をもつ。

⑥外掲示板に作品が飾られる喜びや保育園内の楽しい出来事を発信したいという思いが強くなり、卒園制作として掲示板を飾りたいと発想が生まれる。数人の発想を、クラス全員で作ろうと意見を出し、話し合い、まとめ、実現させる。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

①野菜の苗から収穫後の野菜の大きさ・形・味を想像し、収穫を期待している。土を配合したり、やわらかくすること、苗同士をくっつけないことを学ぶ。そして、じゃがいもからポテトチップスが作れることを想像し、何味がいいか友だち同士で言い合う姿がある。また虫をみつけ名前を伝え合っている。

②花の数が増えていること、色の違いなどにきづく。生長を誰かに知らせたいという気持ちを担任が汲み取り、じゃがいも日記にを書くことが決まる。また、砂場の上の藤の花にも興味をもち、開花に感動する姿やその美しさを保育園以外の人にも知らせたいという発言があり、クラスで意気投合している。その思いを汲み取り、担任が外掲示板に藤の花の作品を飾ることを提案し、共同作品を作る。

③「じゃがいもになにかしてあげられることはないか」と子どもからの思いから、図鑑で調べる姿が増えた。「じゃがいも日記」に図鑑から知ったことを描く姿もある。

④じゃがいもの収穫は大成功。育てている時からのポテトチップスづくりにクラスの話し合いで決定。クッキングとして取り組む。

⑤じゃがいも収穫の成功後、他に植えたさつまいもや米もちゃんと育つか心配になった。家族で鳴子踊りを見た子どもが数名いて、クラスの話題になる。その鳴子踊りが米をつつくスズメ除けの踊りだったことを知る。踊ってみたいの言葉から担任が鳴子を使った踊りを考え、運動会で披露したいという気持ちが育つ。

⑥保護者や近所の方が外掲示板を眺めている姿を見つけたことから、作品を見てもらう喜びと誇らしさを感じていた。新しくなった掲示板にも作品を飾ってみんなに見てもらいたいという言動を保育者が受け取め、卒園制作を提案する。卒園制作完成までに話し合い、協力する姿がたくさん見られた。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

毎年の積み重ねがあるので、子どもたちの行動から、生長や収穫への期待感を大きく感じる。大きい学年ほど、昨年の「美味しかった」という経験を踏まえ、育てるだけではない食べることへの楽しみな気持ちが大きく、水やりをしたり、実が膨らんだりしているのを見て、子ども同士の会話でも食べることを想像している。育てた作物を美味しく、有難くいただくという経験は子どものわくわくに重要だということを感じる。また、昨年度は作物が不作に終わった経験もあり、どうやったら収穫できるか、おいしく食べられるかを考えよう、調べようとする姿が多かった。そんな中から、子どもの発想や担任が高知出身であることから、鳴子で踊る活動を取り入れ、運動会で披露し、認めてもらうという経験につなげることができた。作物が上手く育たなかったことを、「上手く保育に取り入れられなかった」と反省もしたが、子どもの発想を注意深く受け止め、一緒に組み立てていくことで、新たな活動が生まれたことを素晴らしいと感じる。

加えて、高齢者施設や地域で関わりをもってくれた方へ感謝の気持ちや、自分たちの保育園生活を外へ広げようと思う気持ち（今回は庭に咲いていた藤の花を作品にし、掲示板に飾ったことが始まり）が、外掲示板という場があることによって十分に満たすことができた。その結果、園の一番の広報活動ともなった。

自然のありがたさを感じると共に、厳しさも体験しながら、自然を大切にする気持ちや生きる力を育んでいくことはやはり大切だと思う。土と水とおひさまが十分に堪能できる園庭の環境を十分に活かしていきたい。また、特に就学を迎える子どもたちにとって、認めてほしい相手が、保護者や保育者に留まらず、外の世界に向けられていくことを知った。子どもたちの世界を広げられる保育を継続していきたい。